

## 岡山誠司名誉教授著作目録抄

- 「光電式光高温計に関する研究」東京工業大学学報 18 (学位論文) 1964年3月
- 「大学一般教育における視聴覚化の一つの試み」物理教育 **13** (1) 1965
- 「体感調節と体感温度計」医用電子と生体工学 **3** (2) 1965
- 「一般教育をめぐって、文科系における物理学の一方」青山学院大学一般教育部会論集 10号 1969
- 「Heuristics と工学的思考」一橋大学研究年報 自然科学研究 12 1970
- 「人文・社会系における一般教育物理」一橋論叢 **63** (1) 1970
- 「自然科学情報の新分類」一橋大学研究年報 自然科学研究 13 1971
- 「測定的基础概念」一橋大学研究年報 自然科学研究 14 1972
- 「情報科学の体系化について一試案」一橋論叢 **69** (4) 1973
- 「情報科学の構造とその体系化」情報管理 **17** (5) 1974
- 「A Structure of Information Science and Its Systematization」Hitotsubashi Journal of Arts and Science **15** (1) 1974
- 「方向・方位の呼称の割当に関する情報科学的な考察」一橋大学研究年報 自然科学研究 18 1978
- 「人間になじむ透視年尺度目盛の提案」一橋大学研究年報 自然科学研究 19 1979
- 「情報としての地図」一橋大学研究年報 自然科学研究 20 1980
- 「情報科学とその体系化」一橋論叢 **85** (4) 1981
- 「科学・技術は人間に何をもたらしているか」一橋論叢 **86** (6) 1981
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(I)」一橋大学研究年報 自然科学研究 21 1982
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(II)」一橋大学研究年報 自然科学研究 22 1983
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(III)」一橋大学研究年報 自然科学研究 23 1984
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(IV)」一橋大学研究年報 自然科学研究 24 1985
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(V)」一橋大学研究年報 自然科学研究 25 1986
- 「通信教育におけるマルチメディア」通信教育研究集録 34 1987 (共) 山本勝夫
- 「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(VI)」一橋大学研究年報 自然科学研究 26

1987

「Fractal dimension and scaling behavior of cracks in a random medium: "Frequency—rank" distribution described by generalized random walks」Physical Review B 37 (16) 1988 (共) 原啓明

「問題解決の視点からみた現在・過去・未来(VII)」一橋大学研究年報 自然科学研究 28 1989

「表示と記録のテクニック I」総合図書 1967

「表示と記録のテクニック II」総合図書 1968

「情報科学」朝倉書店 1970 (共) 杉田元宜

「バンドラの箱(上, 下)」共立出版 KK (共) 増田, 太田, 日高, 大森

「重力と地球」訳(A. H. Cook) 共立出版 KK 1974

「情報科学序説」開成出版 KK 1978

「記録と発表のテクニック」共立出版 KK 1981

「問題解決の方法」講談社 1981

## 編集後記

本号は自然科学・数学エリアからの寄稿を特集した。実質的に編集の任にあたられた永島、中嶋両教授に記していただいた。

上野卓郎

数学の研究・教育の充実に尽くされた松坂和夫名誉教授に、一同の感謝の心をもって本号を捧げます。

先生の講義を聴き、ゼミに参加し、あるいはご著書の明晰で快い文章を読んで、松坂氏のお人柄を通じて数学の魅力を知り数学に親しむようになった人は数知れないことでしょう。先生のお教えによって、長い歴史を担った文化としての数学の心を会得し、数学が機械的な冷たい計算技術のみでないことを初めて悟った人が少なくないと思います。

数学の本質は、集合論の創始者カントールが言うとおり「自由な考え方」にあると思います。数学を創り出すのは人間にだけできることであって、計算機が人間の創造的な仕事を奪うことは将来も決してできないでしょう。

さて、本号には、今年一月に一橋大学からお茶の水女子大学に移られた真島氏をも含めて、数学教室の方々に論説を書いていただきました。論説を書こうと思いつつも数学教室主任としての仕事に追われてついに果たせなかった私は、教室主任を永くお務め下さった松坂氏のご心労の大きさをいまあらためて推察いたしております。

松坂氏が今後もご健康でご活躍下さいますように、ご執筆中の「数学読本」の完結を待望しつつ、お祈り申し上げます。

永島 孝

小平における理科教育、とりわけ物理学・情報科学教育に、20年間の長きにわたって尽力されてきた岡山誠司先生の御退官を迎えることとなった。

筆者が岡山先生と接することができた期間は、本学の地学非常勤講師の時期を含めて、かれこれ10年近くになる。この間に、先生の御専門の情報科学分野に関連して、数多くの御教示を頂いた。ユニークな発想法にもとづく先生の情報処理論は、感謝の念とともに今でもいろいろ思い出される。

ところで、現在、筆者らの最大の関心事でもある「一橋大学の前期教育の問題」について、筆者が接した範囲内では、岡山先生はむしろあまり多くを語られなかったように思われる。われわれの間でこの問題が一度話題になった時、先生は「それについては、キミ、もうずいぶん前に皆でいろいろ考えたんだよ」と言葉少なに言われた。残念ながらそのさきについて具体的に伺いする機会もなく時がたってしまった。本学において理科教育を担当する者にとっては、「理科と文科の接点」という問題は一つの大きな関心事であるが、たとえば、これについて岡山先生はどのように考えておられたのだろうか？

解答は、この前の『小平学報』第100号に与えられていた！先生は本当にずいぶんいろいろなことを考えておられたのだった。

詳しいことはここでは省略させて頂くことにする。一橋論叢の本号を岡山先生の御退官記念号として捧げるにあたって、私たち一同は、先生の書かれたことを熟読玩味しつつこの問題解決へ一層努力することを改めて確認したい。

中嶋浩一